

形をとりえてほしいです(図表2)。

ワーク・ライフ・バランスの「ライフ(Life)」には生命・生活・生涯という3つの意味

があります。日本では2番目の「仕事と生活のバランス」という意味でしかとらえられていませんが、他の2つも非常に大事です。まず「仕事

職業領域 収入を得ることを目的として社会的分業に参加	地域領域 互いの生活の豊かさを求めて合意を形成
家庭領域 衣食住という日常生活行動を共有	個人領域 社会的役割から距離を置いたプライベートな領域

と生命のバランス」について、働かざる命を失ってしまうのが過労死ですが、そもそも私たちは生きていくために働いているのだから、仕事で命を失うのはおかしい話です。「仕事と生涯のバランス」について、働く期間は人生の一部にすぎません。仕事が生涯の全部と考えてしまうと、定年してから20年間ずっと、人生の意味を失ってしまいます。ワーク・ライフ・バランスの意味を再考する

性別にとらわれない多様な生き方の実現

「コミュニケーションで関係構築」

仕事だけにとらわれず、夫婦のコミュニケーションを増やしていくことで、男性はもっと生きやすくなります。日本の男性は結婚すると安心してしまつて、肝心の夫婦関係を築くことを忘れていく傾向があります。これは大問題です。子育てという共同作業があるうちは良くて、子どもが巣立ったあと、夫婦関係を築けていない

男性は、関係形成型のコミュニケーションをもっと学ばなければなりません。無駄話には関係形成という大きな意味があります。まず相手の話を聞きましょう。そうすれば相手に信頼され、こちらの話も聞いてもらえるようになります。そこから関係が構築されていきます。

「消極的寛容から積極的寛容へ」

地域社会に対する態度も同様です。現代人は寛容だと言われますが、異なる価値観の人と分かちあおうという姿勢ではなく、自分に関係ない、好きにすれば、という無関心によるものであればそれは「消極的寛容」に過ぎません。それよりも、地域に住むいろいろな価値観を持つ人と交わっていくことで、地域社会と良いつながりができ、お互いに助け合えるようになる「積極的寛容」が望ましいです。行政の実施するイベントなどを活用し、地域の活動に積極的に参加すれば、男性は自分の居場所ができるし友達もできます。定年退職後の地域の方に、急なトラブルのときに子どものお世話をお願いでき

【男性が参加できる地域の講座】

【親子対象講座】グローバル教育ってなあに？ 国際人になるための はじめの一步
ゲーム等を通して考え方や価値観の違う人たちとの付き合い方を体験してみよう！
【対象】市内在住の小・中学生とその保護者
【日時】28.10/23(日) 13時30分～16時40分
【会場・申込】ひばりが丘公民館(042-424-3011)まで

【地域で楽しむ料理講座(パート3)】 申込は10/20まで!
メンズクッキング～スパイスカレー～
体に良くて本当は簡単！スパイスカレーと一緒に作りませんか？
【対象】市内在住・在勤・在学
【日時】28.11/3(木・祝) 10時～13時
【会場・申込】田無公民館(042-461-1170)まで

るようになるかもしれません。そうすれば、夫婦だけで背負っていた育児の負担は軽くなります。定年退職後の地域の方も、やりがいを見いだせるようになるでしょう。夫、妻、地域社会、すべてに良い面があります。

男性は仕事、女性は家事・育児というように、性別によって役割分担を決めてしまつたという発想は限界がきています。性別にとらわれず、もっとそれぞれの個性を生かし、柔軟に助け合うことが、男の生きづらさを解消することにつながるのではないのでしょうか。



『不自由な男たち』著者：田中俊之×小島慶子 出版：祥伝社新書

家族で地域で 子育て、孫育て、たまご育て

棒田 明子
(NPO法人 孫育て・ニッポン 理事長)

10時間以上母子一人きり60%以上

少子高齢化が進み、日本の子育て事情も大きく変化しました。一昔前までは、産後は実家で過ごし、その後大家族の中で、多くの人の手を借り、子育ての知恵を授かりながら、親は子育てをし、子どもはいろいろな大人にかわいがられて大きくなりました。しかし、現在は出産年齢の高齢化、祖父母が近くにいない、出産ギリギリまで仕事をしていたので近所に知り合いもいないなど、産後、子育てをパパ・ママ二人だけで担うことが多くなっています。

育児や子育て支援センターなど制度、施設の整備はすすみました。しかし、現実には産後1～3カ月のママはパパの仕事の帰りが遅く、1日に10時間以上赤ちゃんを一人きりという人が60%もいるのです。また、赤ちゃんは泣くのが仕事という言葉も死語となり、泣いたら日中も窓を閉めるママが増加。充実しているかのように見える子育て支援ですが、実は「みんな子育て」は、ほゞ遠いのが現状です。

たまご(他孫)育てが社会を救う？

そこで、シニア世代の方にチカラを貸していただければと思います。昔から子どもは多くの人に抱かれ、多くの人に手をかけてもらうと幸せになる」と言われています。自分のお孫さんにかわいがり、気にかける方は多いと思いますが、ぜひ他人の孫たまご他孫も、ほんの少し気にかけていただければと思います。

ささえあいの輪を

地域のシニアと子ども、子育て世代がつながることで、地域の防犯、災害時の減災にもつながります。阪神淡路大震災のときに、救助隊に助けられたのはわずか1.7%、家族が31.9%、28.1%の方は近所の人に助けられています。

子どもが事件に巻き込まれたときには、一番の情報は目撃情報、それとその子どものことを知っている人がどのくらいいるかがカギと言われています。多世代のご近所さんの輪が繋がると、子どもにも大人にも笑顔が増えますよ。



【プロフィール】棒田明子(ぼうた あきこ)
NPO法人 孫育て・ニッポン理事長
「3・3産後サポートプロジェクト」リーダー
著書、共著に「祖父母に孫をあずける賢い100の方法」
岩崎書店、「ママとパパも喜ぶ いまどきの幸せ子育て」
家の光出版、CD「孫育て童謡」監修